

シマフクロウの生態
100つがい

シマフクロウ保護・研究家 山本純郎

1971年にシマフクロウが天然記念物に指定されましたが、これに伴う本格的な調査は行われていません。私がシマフクロウに関わりだした頃（1973年）、故永田洋平氏の道東を中心とした調査結果をもとにシマフクロウの総数は数十番いと言われていました。

1984年から国をあげての保護増殖事業が始まりました。それが徐々に実りだしましたが、成果がはっきり出だしたのは2000年になってからです。当初、この100番いという数字は私が生きているうちには達成できないと思っていました。つがいの生息場所、つまり100カ所に生息しているということです。羽数にすれば200羽、当然単独個体や移動中の若鳥もいるわけですから、それらを含めると推定250羽以上と考えます。この急激な増え方には少し怖さも感じます。ある人は「ロウソクの最後の灯」と言っていたのが頭から離れません。保護に関わっている人はこれまで以上に身を引き締めて取り組まなければいけません。事業の成果よりシマフクロウ自身に勢いが残っていた証拠でもあります。その勢いが継続できるように環境の整備を押し進めなければなりません。最終的には道北、道南に定着、繁殖が継続的に行われるようになれば、事業に終わりが見えてきますが、



親子
左から若鳥
雄親
雌親



地上で
ハンティング中の
雌親

ここからが大変だと思います。そして環境の整備は永遠に続くでしょう。シマフクロウは大原生林に棲む鳥ではなく、ごく一般的な河畔林の鳥です。「湿地にはタンチョウが餌をついばみ、上空をオジロワシが汎翔し、林縁部ではシマフクロウが夜を待っている」このような光景がいたるところで見られるように

れば、初めて保護事業が成功したと言えるでしょう。それまでは皆さんと一緒に頑張りたいと思います。

この原稿を書いている時、2羽の死亡の報告を受けましたが、新しい営巣場所も見つかりました。



事務局便り

●令和5年度は、弊社設立10周年を迎えて、いろいろな記念事業を企画しています。本号でご報告した北海道コンサドーレ札幌との連携企画もその一つです。コロナ禍の状況を見極めながら、講演会などの行事開催も視野に入れていきたいと考えていますのでご期待ください。

●賛助会員・寄付を募集しています

当会の活動趣旨にご賛同いただける法人・個人の皆様の賛助会員ご入会とご寄付を募集しています。当会のホームページから手続きができるようになっておりますので、ぜひご覧ください。

【認定NPO法人北海道シマフクロウの会 事務局】(担当:米谷・久保木)

〒060-8640 札幌市中央区大通西3丁目11番地 北洋ビル6階 (株北海道二十一世紀総合研究所内) TEL 011-231-8681 FAX 011-231-8683

URL: <https://hokkaido-shimafukurou.org/> E-mail: info@hokkaido-shimafukurou.org

北海道 シマフクロウ通信

特定非営利活動法人 北海道シマフクロウの会 機関誌



第34号

写真: 山本純郎



設立10周年記念事業 北海道コンサドーレ札幌との連携

認定 NPO 法人北海道シマフクロウの会 事務局

株式会社コンサドーレとの連携協定締結

当会は、令和5年2月22日付で株式会社コンサドーレと連携協定を締結いたしました。これは、株式会社コンサドーレが運営するJ1リーグサッカーチーム『北海道コンサドーレ札幌』のエンブレム・チームマスコットである『ドーレくん』が当会が保護活動支援に取り組んでいる絶滅危惧種シマフクロウをモデルにしている絆を尊重し、相互の活動を支援するためのものです。

つきましては、今後、次のような取組を行ってまいります。

1. シマフクロウの保護等に携わる方々への支援
2. シマフクロウに関する情報発信
3. シマフクロウ保護と生物多様性保全に向けた啓発活動
4. そのほかシマフクロウの保護に関すること
5. 相互の支援者増強のための活動への取組み



連携企画第一弾

札幌ドーム開幕試合ヴィッセル神戸戦で特設ブース出展

2月25日(土)に開催されたホーム開幕試合ヴィッセル神戸戦で、札幌ドーム1階コンコース北3ゲート奥に特設ブースを出展させていただき、シマフクロウの川での狩りの動画上映、支援募金箱の設置、入会勧奨などを実施いたしました。

当日は、公益財団法人日本野鳥の会の松本様、池淵様にもご参加いただき、シマフクロウの巣箱の実物や羽根の実物、

紹介タペストリーなどを展示、ご説明もしていただきました。また北海学園大学の早矢仕先生、三浦様、湯浅様にもご協力いただき、シマフクロウとエゾフクロウのはく製を展示、シマフクロウの生態や特徴などについてわかりやすくお話しいただきました。

ホーム開幕戦ということもあって、約1万7千人の入場者がありました。当会特設ブースには、コンサドーレ様のご

配慮によるドーレくんとコンサドーレズのPRもあって、大変多くのサポーターに訪れていただきました。

支援募金箱には、140,092円のご寄付(募金)をいただきました。あらためまして、この日ご参加いただいたすべての皆様のあたたかいご支援・ご協力に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



「つがい100組、活動の金字塔」

——設立10周年を迎えて

認定 NPO 法人北海道シマフクロウの会理事長 村田 正敏

「シマフクロウつがい 最多100組」—今年3月、2022年度の環境省生息数調査の結果が報じられ、心躍る気持ちになりました。5年に一度実施されているこの調査で、つがいが増え(17年度)の72組から28組も増えていたということです。

「シマフクロウの生息数は165羽程度」と説明してきましたが、これを大きく上回っていたわけです。シマフクロウを絶滅させない、との強い決意を持って保護・増殖に取り組んでこられた研究者をはじめ、釧路市、札幌・円山、旭川・旭山の3つの動物園、環境省、林野庁、日本野鳥の会などの皆様のご努力の賜物であり、保護活動の金字塔とって差支えないと思っています。

北海道シマフクロウの会は2013年9月16日、任意団体として発足し、その後、NPO法人に移行してきました。設立総会で横内龍三初代会長は「地球環境の維持にもっと関心を持つべきだ」と呼びかけ、記念講演をされた山本純郎さんは生息数について「道内で約140羽。25年間で約2倍になったが、まだ絶滅

の危機から脱してはいない」と強調しました。こうした危機意識は今も変わってはいません。

「会」は間もなく設立10周年を迎えますが、北海道の「森の神」とでもいえるべき、この絶滅危惧種を守るために「息長く、多彩な活動」を心掛けていきます。

今年2月には、シマフクロウをエンブレムに使っている縁で北海道コンサドーレ札幌と連携協定を締結。同月25日には試合が行われた札幌ドームでPRブースを設けたところ、多くのサポーターの皆様が詰めかけ、募金箱には14万円を超えるお金が集まりました。

シマフクロウのはく製を展示していただいた北海学園大学の早矢仕有子教授、本物の巣箱を持ち込み、展示していただいた日本野鳥の会の皆様などの手助けをいただきました。

この秋には10周年記念行事の開催や、「会」のシンボルマークの制定なども検討して次の10年に向けて歩み続けます。会員皆様の更なるお力添えをお願いいたします。

事務局より

保護活動支援金の贈呈に対し、旭川市と釧路市から感謝状をいただきました

